

日中米そしてASEAN

—東アジア 対立と共存の構図の中で

東京理科大学教授
おお庭ば三枝え

- * 最近のASEAN拡大国防相会議について
- * 増えるASEANを中心にした地域制度
- * 重要性増すASEAN+1の関係
- * 東アジアとも関係深まるASEAN
- * 対立と共存という視点
- * ASEAN共同体への長い道のり
- * 民主化や人権にも目配り
- * 経済統合をいかに実現するか
- * 二国間・多国間の対話協力を注力
- * 台頭する中国とどう向き合うか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、年1回の恒例になっておりますアジア平和貢献センターとの共催の講演会でございます。大庭先生には、今年の2月にやはりセンターとの共催のシンポジウムでお話をいただきました。アジア地域、特にASEANを中心にお話をされましたが、30分しかなくて、たいへんもったいないお話でございました。今回はちよほど節目の年でございますし、それから、先ほどちょっと事前にお話をしましたが、日中韓が新しいステージに入りましたし、最近ではASEANと防衛省の会議がございまして、これもいろんな意味で皆さんのご興味をかき立てたんじゃないかと思えます。

そういう意味で、日本はアジアと離れて暮ら

すことができませぬので、ASEAN、韓国、中国を初めとする東アジア、それから、特にやはり米国との関係を複眼的にきちんと見ていかないと日本の将来も見えていかないということでございますので、今日はまさにそのところで長年研究されてこられた大庭先生にお話をいただけるということでございます。

それでは、西原先生からちよつとごあいさつをいただきます。

西原 ただいまご紹介いただきました。この講演会の共催団体でありますアジア平和貢献センターの理事長を仰せつかっております。ただいま理事長からお話がありましたように、年1回、共催の講演会と、もう1回、これは大体2月を予定しておりますけれども、共催のシン